

【考察】

Study I. 地域栄養指導内容に関する実態調査—アンケート調査—

地域における栄養改善業務にて実施される栄養指導は、指導全般に関する方法、指導内容の記録・保管に関する項目にはばらつきがあり、それぞれの担当栄養士により思い思いに「なんとなく」行われている現状が明らかとなった。また、指導実施者の雇用形態や経験年数も、栄養指導に偏りを生じさせていることより、実践されている栄養指導方法は標準化されていないと考えられる。一方、栄養指導への自己評価から、指導実施者である管理栄養士の多くが、自身の個別栄養指導に対して少なからず問題があると感じており、今後の自身の栄養指導について、“今までより良くしたい”という高い改善意欲を抱いていることが明らかとなった。これらのことより、栄養指導の指導実施者である管理栄養士のスキルの質を上げるためにも、系統立てられた指導を実施するための指導者へ向けた教育マニュアルが必要であると考えられる。Simsらの研究では、栄養士が自分達のパフォーマンスをどう評価しているか調査今後、職場環境や、学歴がそれに及ぼす影響も調査する必要がある、と述べている¹⁰⁾。

Study II. 効果的な栄養教育マニュアルの開発 教育ツール「栄養カウンセリングシート」の作成

現在、保健指導の学習教材として開発されている教育ツールは、保健指導において主に、Assessment（現状評価）、Plan（計画）、Do（実施）の各段階において、対象者をより具体的に把握する、より適切な指導計画を立てる、より効果的な指導を実施して行くために、それぞれの段階において活用するツールとして個々に提示されているものがほとんどである⁸⁾。

今回作成した“栄養カウンセリングシート”は、「対象者へ効果的な指導を行うための教育ツール」という観点と、効果的に指導を進めていくために、指導実施者である管理栄養士自身が「栄養指導を客観的評価するための指導ツール」という両方の観点を持った教育ツールとなっている。栄養カウンセリングシートには、Assessment（現状把握）→Plan（計画）→Do（実施）の流れに沿った指導を行うための項目が1枚のシートの中に統合されている。栄養カウンセリングシートの中の“改善チェック表”の活用により、指導者が自らの指導を“客観的評価する”ことで、指導者側がより良い指導の方向性を検討するうえでの活用が期待される。教育ツールとして実際の栄養指導において活用することで、指導者の視点から指導方法の標準化を目指す、というコンセプトが盛り込まれている点に特徴がある。

地域における栄養指導の計画や実施形態は、科学的根拠に基づいた立案・実施という視点に基づくというよりもむしろ、年間事業計画の中で行われるものという位置づけが強い傾向にある。国内外の文献レビュー、および過去の研究報告値から調べた方法論は、デザインされた介入試験の中における結果および手法である^{11,12)}ため、実際の現場での栄養指導への適用・応用が重要となってくる。国内の研究では短期介入の耐糖能関連指標の変化による評価にとどまっておき、長期介入の効果については十分なエビデンスは少なく、特に長期介入終了後におけるフォローアップによる継続の維持は大きな課題である。Norrisらが、地域において罹患率や死亡率による介入の長期効果^{15, 16)}、また、実際の地域における介入の実施方法にさらなる研究が必要であると提唱しているように、地域の栄養改善業務の中で実施が可能で、対象者に対して継続的視点で栄養指導の実践するための栄養教育手法（マニュアル）の開発とその評価が必要である¹⁴⁾。

StudyⅢ. 教育マニュアルの評価

地域栄養指導における「栄養カウンセリングシート」の利用

教育ツール“栄養カウンセリングシート”を利用し、Assessment（現状把握）→Plan（計画）→Do（実施）→See（評価）の流れに沿った指導方法を実践することが、指導者の変更、また、経験や能力により対象者へのアセスメントや指導内容に違いが生じてくるという問題点を解消することができると考えられる。その利用は、臨時・その他の雇用形態の管理栄養士、また、行政における栄養士歴が浅い管理栄養士 において有効であると思われる¹³⁾。管理栄養士が自身の栄養指導を自己（客観的）評価することは、個々人への指導の視点を標準化することにつながり、指導者側がより良い指導の方向性を検討するうえで役立つ有効な方法論であると考えられる。

今回作成したマニュアルは、従来の「対象者へ効果的な指導を行うための教育ツール」という観点と、効果的に指導を進めていくために、「管理栄養士自身の栄養指導を評価するための指導ツール」という両方の観点を持ったマニュアルとなっており、このような、指導実施者である管理栄養士へ向けられた指導マニュアルは今までにない新しい。

【結論】

地域栄養指導に携わる指導者の視点を標準化するために開発された、教育ツール“栄養カウンセリングシート”は、対象者に対する指導の視点を標準化し、バラバラになされていた栄養指導を統一することが可能であると考えられ、管理栄養士に向けた効果が期待できる教育マニュアルと考えられる

平成 20 年 4 月より開始される特定保健指導のアウトソーシング化にて、指導実施者が変わることが予想される状況下では特に有効であろう。

この視点を基にした栄養指導の有効性を高めるためには、今回実施した、指導実施者である管理栄養士の視点からのマニュアル評価に引き続き、地域における栄養指導の効果を、住民の健康度や行動変容を持って評価することが今後の課題である。

今回実施した、指導実施者である管理栄養士の視点からのマニュアル評価に引き続き、地域における栄養指導の効果を、住民の健康度や行動変容を持って評価することが今後の課題である。

参考文献

- 1) 上島弘嗣(滋賀医科大学 福祉保健医学講座)2004308794 メタボリック症候群の治療 生活習慣の改善 医中誌：血圧(1340-4598)11 巻6号 Page583-586(2004.06)
- 2) 上島弘嗣(滋賀医科大学 福祉保健医) 職域における動脈硬化予防の最前線 生活習慣改善へのアプローチ 生活習慣の改善の視点とその効果 動脈硬化(0386-2682)27 巻 Suppl.1 Page96(1999.11) 会議録
- 3) 平江夏江 地域住民を対象とした糖尿病教室の食事・運動療法による効果 日本総合健診医学雑誌 巻23号3 PP285-290 1996 食事とうんどうによる効果
- 4) 宮本徳子 地域住民を対象とした糖尿病予防教室の歩数による評価 日本総
- 5) 厚生労働省 URL メタボリックシンドロームの概要 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/seikatsu/04.html>
- 6) 厚生労働省 URL 特定保健指導 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/seikatsu/pdf/01.pdf>
- 7) 厚生労働省 URL 保厚生労働省 URL 「特定健診及び特定保健指導のアウトソーシング先実態調査」について健指導における学習教材集 (Power Point 版) <http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/07/tp0727-1.html>
学習教材 <http://www.niph.go.jp/soshiki/jinzai/koroshoshiryu/kyozai/index.htm>
- 7) 市町村の糖尿病対策事業における栄養教育方法に関する研究
徳島大学藤井絢子
- 8) 保健指導における学習教材 暫定版
- 9) Rosal MC, Ebbeling CB, Lofgren I, Ockene JK, Ockene IS, Hebert JR
Department of Medicine, University of Massachusetts Medical School, Worcester 01655, USA. Milagros.Rosal@umassmed.edu Facilitating dietary change: the patient-centered counseling model. J Am Diet Assoc. 2001 Mar;101(3):332-41.
- 10) Sims LS, Kohli M. Predictors of effectiveness among public health nutritionists. Am J Public Health. 1983 Dec;73(12):1376-80
- 11) Miller CK, Edwards L, Kissling G, Sanville L. Department of Nutrition, The Pennsylvania State University, University Park 16802, USA. ckm105@psu.edu
Evaluation of a theory-based nutrition intervention for older adults with diabetes mellitus. J Am Diet Assoc. 2002 Aug;102(8):1069-81.
- 12) Carlton DJ, Kicklighter JR, Jonnalagadda SS, Shoffner MB
Department of Nutrition, Georgia State University, Atlanta, USA. Design, development, and formative evaluation of "put nutrition into practice," a

multimedia nutrition education program for adults. J Am Diet Assoc. 2000 May;100(5):555-63.

13) Delahanty L, Simkins SW, Camelson K. Department of Dietetics, Massachusetts General Hospital, Boston 02114. Expanded role of the dietitian in the Diabetes Control and Complications Trial: implications for clinical practice. The DCCT Research Group. J Am Diet Assoc. 1993 Jul;93(7):758-64, 767.

14) Sussan L Norrie, MD, MPH, Xuanping Zhang, PhD, Alison Avenell, MD, MB, Edward Gregg PhD, Barbara Bowman, PhD, Christopher H. Schid, PhD, Joseph Lau, MD: Long-Term effectiveness of Weight-Loss Interventions in Adults with Pre-Diabetes; 2005 American Journal Preventive Medicine Published by Elsevier Inc.

15) 由田克士(国立健康・栄養研究所 健康・栄養調査研究部), 田中太一郎, 菊池有利子, 武林亨, 千葉良子, 玉置淳子, 三浦克之, 岡村智教, 上島弘嗣 青・壮年者を対象とした生活習慣病予防のための長期介入研究 職域における基礎的な健康・栄養教材の有効性に関する検討 産業衛生学雑誌(1341-0725)46 巻臨増 Page360(2004.03) 会議録

16) 岡村智教(滋賀医科大学 福祉保健医学), 由田克士, 武林亨, 菊池有利子, 三浦克之, 中川秀昭, 大和浩, 田中太一郎, 門脇崇, 岡山明, 玉置淳子, 千葉良子, 上島弘嗣 青壮年者を対象とした生活習慣病予防のための長期介入研究 介入群と対照群の介入後 3 年間の循環器疾患危険因子の推移 産業衛生学雑誌(1341-0725)46 巻臨増 Page360(2004.03) 会議録